

平成26年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

<緒 言>

横須賀市医師会と横須賀市保健所は、長年に亘って横須賀市内に発生する STI (Sexually Transmitted Infections=性感染症) 撲滅及び予防のために密接な協力体制を維持して来た。その為毎年、各年度ごとに横須賀市における STI の発生状況に対する実態調査を行っている。ここに平成 26 年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。この様な STI の調査は他の地方自治体でも行われているところもあるが、泌尿器科、婦人科、皮膚科の三科共同での集計は横須賀市のみと思われ、貴重な集計結果と評価されている。

<対象及び方法>

平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの期間に横須賀市内の協力医療機関 (別記) を受診した患者さんを毎月、横須賀市医師会に FAX にて届け出てもらい、横須賀市保健所の協力で集計した。

平成 6 年度より、泌尿器科、皮膚科、婦人科及び性病科を標榜する医療施設全てに届出の依頼と届出用紙を配布している。

膣カンジダ症は症例が多いこと、必ずしも STI ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかに STI が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

<結 果>

1. 届け出施設と回収率

52 施設 (病院 7、診療所 45) にアンケートを依頼し、届け出に協力いただいた施設は 42 施設で回収率は 81% であった。その内訳は病院が 6/7 (86%)、泌尿器科診療所 5/6 (83%)、婦人科診療所 13/15 (87%)、皮膚科診療所 8/13 (62%)、混合科診療所 10/11 (91%)、混合科が著しく上昇した。

2. STI の総数

平成 26 年度 STI 届け出数を年令別、性別、病名別に表 1 に示した。全届け出数は 778 件で、昨年の 782 件とほぼ同数で変化なく、一昨年の 731 件より 6% 上昇した。

3. 疾患別の統計

1) 梅毒：初期梅毒は 3 例、後期潜伏梅毒はなかった。昨年度も初期梅毒は 3 例であり、増加傾向はなかった。

2) 淋菌：淋菌性尿道炎は男性は 109 例で昨年と全く同数であり、昨年 0 であった女性は 3 例報告された。本年は一昨年の 86 例を 26.7% も上まわり、一昨々年の 89 例を大きく上回った。16 歳～19 歳の 10 代男性 5 例が罹患した。21 年度は 48 例であったがここ数年急激な上昇傾向を示しており、本年もやや上

昇のままであった。

淋菌性子宮頸管炎は20例で昨年29例を下まわった。これは男性の淋菌性尿道炎の18%にあたり、又、クラミジア性子宮頸管炎の11%である。本年も淋菌性咽頭炎が男性2例、女性1例報告されている。

- 3) クラミジア感染症：クラミジア性尿道炎は156例で、その内151例が男性で昨年の154例とほぼ同数であり、ここ数年の減少傾向は止っている。男性のクラミジア疾患は昨年同様淋菌の1.4倍であった。一昨々年は淋菌の1.7倍であり、少しその差は縮まっている。年齢別では淋菌とほぼ同様の傾向を示しており、20歳～30歳代が中心であった。本年度は男性の10代の頻度は7例、女性ではなかった。

クラミジア性子宮頸管炎は181例で昨年の184例、一昨年188例と横ばいであった。年齢別には14歳から19歳のハイティーン層が27例で全体の15%で、昨年18%、一昨年19%と比べやや下まわっている。男性の同年令層の5%に比較して著しく高く、注目される。しかも10代27例(15%)、20歳～24歳が56例(31%)、25歳～29歳が30例(17%)であり、29歳までが62%を占めている。

本年もクラミジア性咽頭炎が男性1例女性2例が報告されている。

- 4) その他のSTI：陰毛しらみ症2例(男2例、女0)、性器ヘルペス156例(男26例、女130例)で昨年の143例をやや上まわっており、その内、初発86例、再発70例で、再発が45%を占めていた。尖圭コンジローマは59例(男38例、女21例)で、昨年の73例を19%下まわった。

- 5) 一般細菌など：その他の病原体を原因とするSTIは32例(4.1%)で昨年度と比べやや減少している。

4. 年齢別及び性別発生頻度

全症例778例について、年齢別の頻度を見ると、10歳代57例(8%)、20歳代308例(41%)、30歳代208例(28%)、40歳代129例(17%)、50歳代46例(6%)、60歳以上は3例(0.4%)であった。この年齢別の比率は昨年度とほぼ変わらない結果であったが60歳代が3例と昨年の39例を大幅に減少していたのは注目された。

男女別の発生頻度では、男性353例(45%)、女性425例(55%)で、昨年と同様女性が多く、女性が男性の1.2倍であった。女性は40歳を越えると急に発生率の減少の傾向を示しているのも例年のとおりである。

5. 感染源

表2にSTIの感染源について示した。男性の感染源については、性風俗での感染が107例(不明を除く男性全体の60%)が1位で、友人が56例(31%)で2

位であった。女性では配偶者からの47例（47%）、友人からの47例（47%）と同数であった。

6. 感染地域

感染地域について、表3に示した。平成21年度から性風俗からの感染に限って集計しているのものでそれ以前の統計とは比較できない。横浜市が最も多く27例（不明除く67例の内40%）、横須賀市13例（19%）、川崎市9例（13%）、国外は6例（9%）であった。地元の横須賀は昨年は3例であったが、急に増加している。

<考 察>

1. 総 括

平成26年度のSTI届け出総数は778例で昨年の782例とほぼ同数であった。平成15年度から続いた減少傾向が平成23年からは上昇に転じており、本年度も同傾向である。主たる疾患である淋菌感染症とクラミジア感染症の発生数は昨年とほぼ変わっていない。増加が予想された咽頭炎も本年は淋菌性、クラミジア性共に3例でわずかであった。耳鼻咽喉科への呼びかけが必要であろう。全症例の男女比は1:1.2で昨年に続き本年も女性が多い。

届け出施設は、52施設中42施設で回答率は81%に留まっている。これは発生数の81%きり届け出されていないということではない。届け出のない施設は症例がほぼないと想像され、実数の90%以上は届け出されているものと見ている。

2. 各 論

1) 梅毒：図1の如く、減少の一途をたどっていたが、平成13年度に21例と突然増加した。その後平成14年、15年とほぼ減少傾向にあり、初期梅毒に限ってみると、3例で増加していない。全国的には増加傾向にあると言われている。

2) 淋菌：昭和50年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。一時エイズショックのためと思われる減少を平成5年頃示したが、その後激増して、平成11年度148例、12年度119例、13年度142例、そして14年度123例、15年度126例と横ばい状況であった。19年度98例、20年度79例、そして21年度は58例と著しい減少を示したが、22年度には64例と微増し23年度106例と急に増加し、24年度は95例とやや減少していたが、25年度は突然142例と増加し、本年度も135例と余りかわっていない。

3) クラミジア：男性のクラミジア性尿道炎は平成11年度89例、12年度137例、13年度165例、14年度162例、15年度135例、16年度152例、17年度123例、18年度133例、19年度123例、20年度98例、21年度108例、22年度103例と下降傾向を示しているが、23年度は118例とやや上昇し25年度に149例と大きく上昇した。女性のクラミジア感染症も16年度192例、17年度181例と減少傾向、18年度167例、19年度151例、そして20年度161例と減少傾向をみせたが、21

年度は180例、22年度も180例、23年度は172例で全経過をみると少し上昇傾向を示していたが、24年度は209例と12年ぶりに200例を超えたが、25年度は196例、26年度は188例とやや減少傾向を示した。

- 4) その他の STI: 性器ヘルペスについては22年度から初発と再発を区別し統計をとった。初発は86例、再発は70例で、再発がほぼ半数の45%を占めていた。全体としては横ばいである。尖圭コンジローマ59例と昨年より14例少なく、男女比が逆転した。それぞれはそれほど重大な疾患ではないが、確実に毎年同程度の数の発生を見ていることも忘れてはならないことであろう。
- 5) 感染源: 男性の感染源は昨年と同様1位は性風俗の107例(60%)であった。ただ不明も多く、患者の回答も虚偽のものもありそうな印象である。女性は例年とほぼ同様で配偶者からと友人が半々くらいあった。これも正しい申告かどうか不明である。
- 6) 感染地域: 4年前から性風俗からの感染の地域にしぼって統計をとっている。本年度も横浜市が最も多く27例(40%)であった。2位は横須賀市13例(19%)、川崎市9例(8%)、国外での感染6例(6%)であった。従来は5%程度であった地元の横須賀が急に多くなり、今後この傾向が続くのか注目したい。

<おわりに>

1. 平成11年～14年は全STIの届出数は900人であったが、15年、16年は800人台になり、17年725人、18年からさらに減少傾向で600人台と減少していたが、24年度は731人と急激に増加、25年度は782例と更に増加。本年度は778例と横ばいである。
2. 淋菌、クラミジアは昨年と同様の高い頻度を示した。
3. 回収率は81%と高く、この統計の価値を高めている。多忙の中、毎月調査のご回答にご協力下さり、当委員会は感謝しています。
4. 本年度はクラミジア性咽頭炎、淋菌性咽頭炎が計6例報告されたが、予想より少ない印象であり、耳鼻咽喉科への呼びかけも検討したい。
5. 今年度はじめて性風俗から感染地域として地元横須賀が13%と増えて来た。もう少し詳細に問診することで、更に正確な傾向が判明するかも知れないし、地域におけるSTIを予防する方策も変わるかも知れない。
6. 例年述べているが、この統計資料をどの様に生かすか当委員会の検討課題である。

全国サーベイランス情報と時々異なる傾向を示しており、横須賀市独自の傾向を見ていくのも一つの課題かもしれない。

7. 24年度からこの結果の要約したものを保健所のホームページに発表している。
8. 当会の資料は神奈川県性感感染症学会に報告され、永年に亘る市内全域における調査は日本では少なく、非常に貴重であると評価されている。今年度も報告の予定である。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成4年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：横須賀市における性病およびSTDの動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成5年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成6年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成7年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成8年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成9年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成10年度STD予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成11年度STD予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成12年度STD予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成13年度STD予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成14年度STD予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成15年度STD予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成16年度STD予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成17年度STD予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成18年度STD予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成19年度STD予防委員会研究報告、2007
18. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成20年度STD予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成21年度STD予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成22年度STD予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成23年度STI予防委員会研究報告、2011
22. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成24年度STI予防委員会研究報告、2012
23. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成25年度STI予防委員会研究報告、2013

表1 病名・年齢・性別集計

(平成26年度)

病名 コード	病名	性別	合計	0-14	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	年齢 不明	
1	梅毒(初期)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	梅毒(後期潜伏)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	梅毒(先天性)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	性器ヘルペス(初発)	男	15	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	3	2	0	2	0	2	
		女	71	1	0	0	0	0	1	9	11	10	7	13	4	4	4	4	0	7
5	性器ヘルペス(再発)	男	11	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	2	2	2	2	0	1
		女	59	0	0	0	0	0	0	0	8	5	4	10	5	7	7	6	1	6
6	尿道炎(クラミジア)	男	151	0	0	0	1	1	5	29	40	22	14	18	12	2	4	1	2	
		女	5	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
7	尿道炎(淋菌)	男	109	0	0	1	0	0	4	13	32	16	14	10	10	4	0	1	4	
		女	3	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	尿道炎(一般細菌)	男	6	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	1	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	尿道炎(トリコモナス)	男	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
		女	9	0	0	0	0	0	1	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0
10	尿道炎(その他)	男	11	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	3	2	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	子宮頸管炎(クラミジア)	女	181	1	0	5	5	6	10	56	30	38	17	6	6	0	0	0	1	
12	子宮頸管炎(淋菌)	女	20	0	0	0	1	1	0	9	3	3	1	2	0	0	0	0	0	
13	子宮頸管炎(一般細菌)	女	15	0	0	0	0	0	0	3	2	1	2	1	0	2	1	0	3	
14	子宮頸管炎(その他)	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15	トリコモナス膣炎	女	31	0	0	0	1	2	0	5	4	7	5	3	2	1	1	0	0	
16	陰毛しらみ症	男	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	尖圭コンジローム	男	38	0	0	4	1	0	0	3	9	0	8	7	2	2	1	0	1	
		女	21	0	0	0	0	1	2	2	10	2	1	1	2	0	0	0	0	0
18	咽頭炎(淋菌)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
19	咽頭炎(クラミジア)	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
20	その他	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0
	合計		778	2	0	10	9	12	24	144	164	114	94	74	55	24	22	3	27	

表2 STIの感染源

(平成26年度)

感染源	小計	男	女
不明	501	175	326
友人	103	56	47
配偶者	55	8	47
性風俗	108	107	1
その他	11	7	4
合計	778	353	425

(平成26年度)

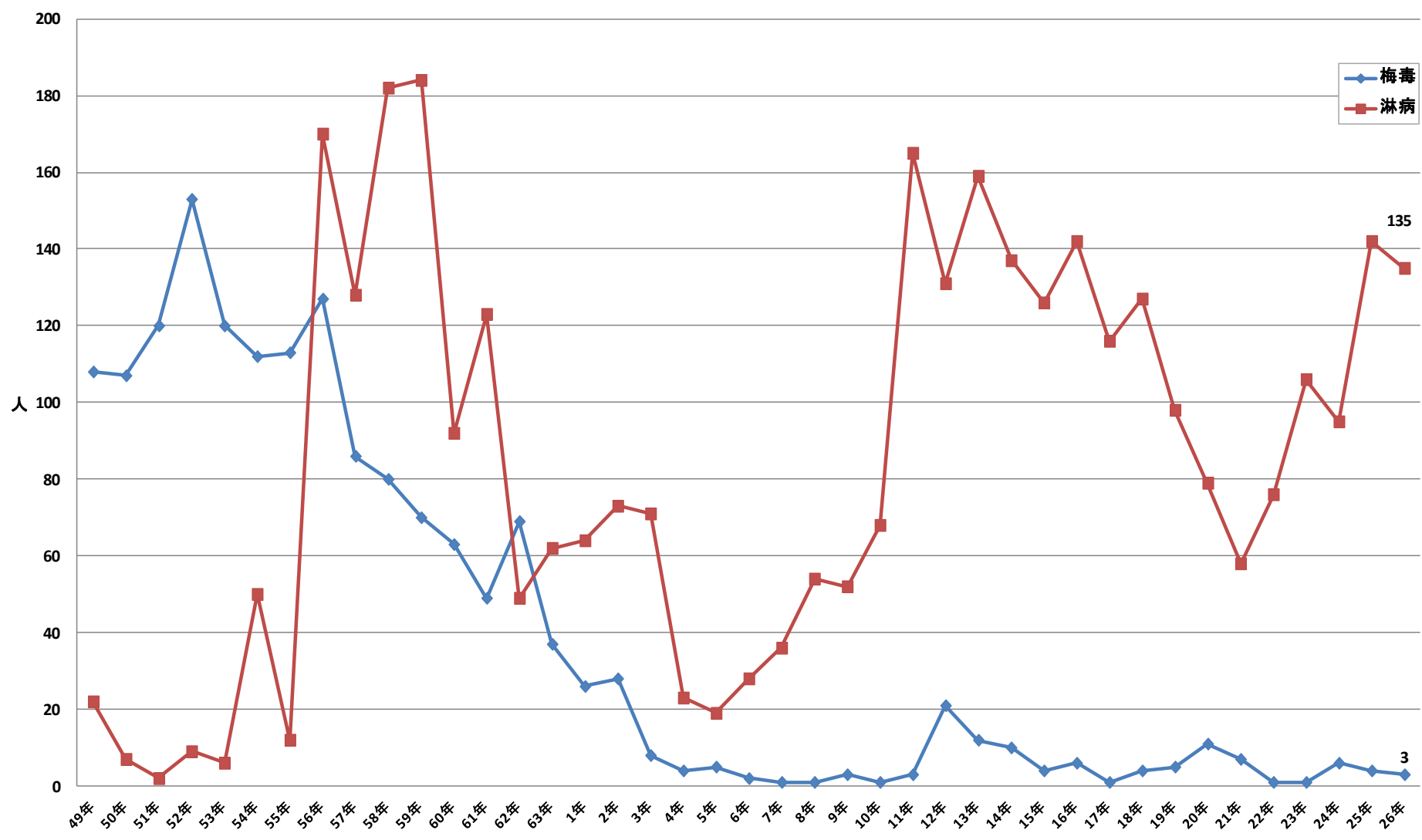
表3 STIの感染場所(感染源:性風俗)

感染場所	小計	男	女
横須賀市	13	13	0
横浜市	27	27	0
川崎市	9	9	0
相模原市	0	0	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	0	0	0
県外	12	12	0
国外	6	6	0
不明	41	40	1
合計	108	107	1

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

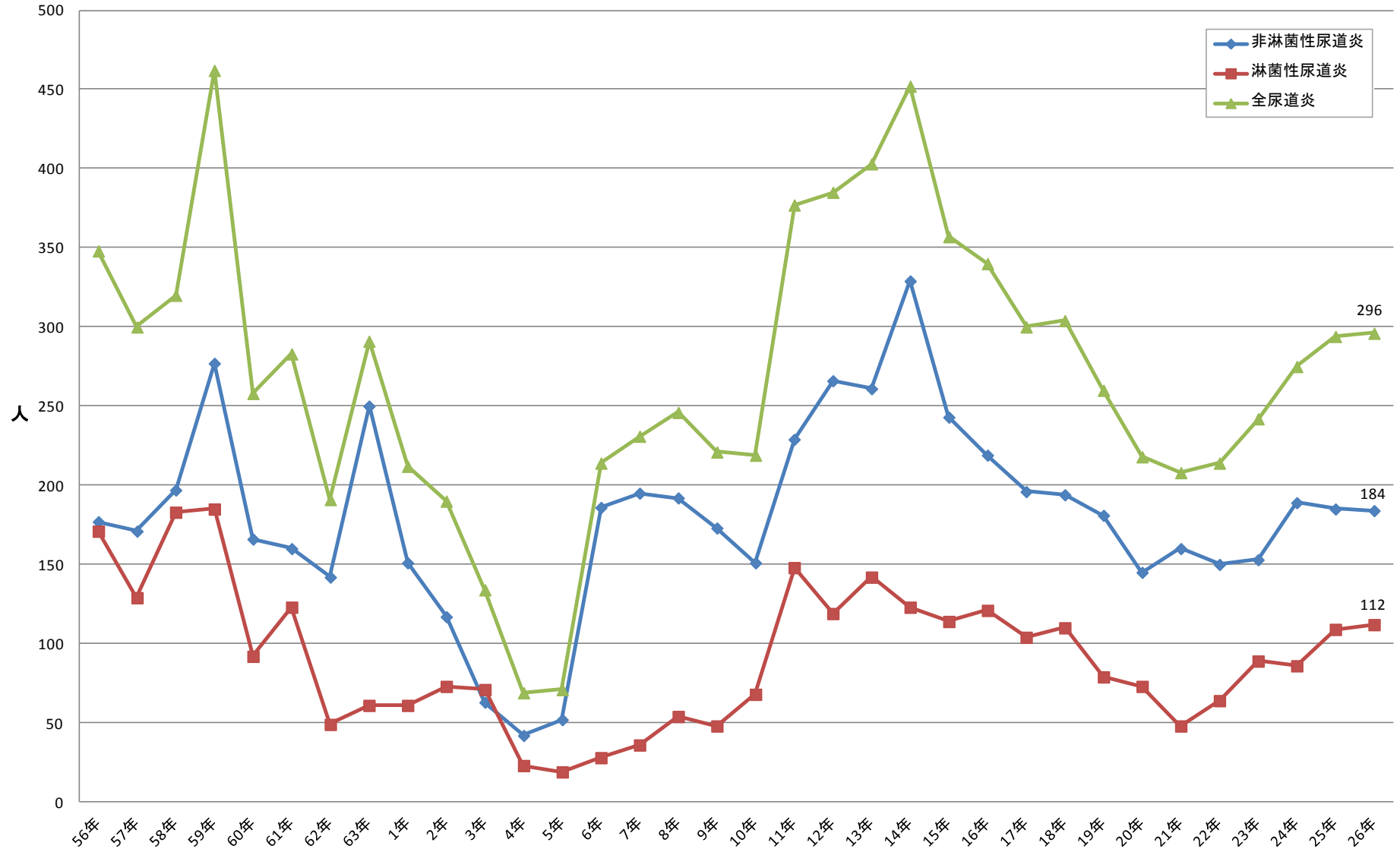
年度	淋菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
11	145	20	89	159	413
12	118	13	137	221	489
13	142	17	165	184	508
14	121	16	162	190	489
15	114	12	135	180	441
16	121	22	152	192	487
17	103	13	123	181	420
18	110	17	133	167	427
19	79	19	123	151	372
20	71	8	98	161	338
21	47	11	108	180	346
22	61	15	103	180	359
23	84	22	118	172	396
24	79	16	132	209	436
25	109	33	149	196	487
26	111	24	152	188	475

図1 41年間の梅毒・淋病報告数年次の推移



10

図2 34年間の尿道炎報告数年次的推移



・S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜平成26年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎泌尿器科、新村皮フ泌尿クリニック、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック、よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウィメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、桜が丘診療所、国立クリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、坂井産婦人科医院、佐々木医院、鈴木産科婦人科医院、つのだレディースクリニック、パクスレディースクリニック、横須賀マタニティークリニック、くりはま優レディースクリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、金丸皮膚科、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、長岡皮膚科医院、中林皮膚科、中村皮膚科、峯村皮膚科クリニック、新のび皮フ科、安田内科・皮ふ科、すずらん皮膚科クリニック、みやざわ皮膚科、さくら皮膚科

【その他医院】

青山医院、今井内科クリニック、いまにしクリニック、金谷医院、工藤医院、斎藤医院、湘南グリーンクリニック、鈴木クリニック、同胞援護会衣笠診療所、鳥海医院、中村外科整形外科

【総合病院】

浦賀病院、衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、横須賀共済病院、横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院